

研究室紹介

東北文化学園大学大学院 健康社会システム研究科

教授 野崎淳夫 研究室



経歴

- 1957年 福島県生まれ
- 1983年 一級建築士
- 1986年 日本大学大学院理工学研究科
建築学専攻修了
- 1993年 工学博士(日本大学)
- 1990年 国立公衆衛生院 客員研究員
- 1999年 東北文化学園大学 助教授
- 2002年 国立保健医療科学院 客員研究員
- 2003年 東北文化学園大学 教授
- ・日本建築学会、室内環境学会燃焼排ガス
汚染対策系委員会 委員長
- ・室内環境学会評議員、東北支部長
- ・日本臨床環境医学会 理事
- ・大気環境学会北海道東北支部 幹事
- ・空気調和・衛生工学会 fellow
- ・日本建築学会賞(論文賞) など多数受賞

1999年4月に、野崎研究室はみちのく仙台に誕生し、今年で17歳を迎えました。当研究室のテーマは幅広く、室内空気汚染とその対策技術を中心に、最近では生体ガス研究で空調機器業界とのビッグプロジェクトが進行中です。開学当初から、当研究室では国立公衆衛生院(現国立保健医療科学院)や東京大学、東北大学などの共同研究を行い、VOCやアルデヒド類に起因するシックハウス問題やコピー機などから発生するオゾンによる空気汚染問題の解決に挑戦してきました。燃焼器具によるNO_xなどの空気汚染問題は、延べ30年も継続して研究しております。

野崎研究室では、新発想を生み出す空間を大事にしています。ダイナミックな発想は研究室のみで生まれるものではないと考え、豊かな自然や浴室、トイレなどの特殊空間を大いに活用しています。そのため、トイレ空間を最新の空気清浄技術で脱臭するテーマなども設定されましたが、結果として大手家電メーカーとの共同研究でトイレ用脱臭・照明器具の開発に結び付きました。野崎研究室では、建築産業に就職し、化学物質放散量の少ない建材、インテリア用品、建築部品などの開発に関わる研究技術者や健康快適な建築環境の設計施工技術者を数多く輩出しています。

また、パッシブサンプラー、空気清浄機、脱臭機、空調設備の研究開発者になる者もおります。例えば、某大手建材メーカーに就職した秋田出身の原田尚子(旧姓 浦山)さんは、化学物質や臭気物質の放散の少ない建材、人に優しい建材を次々と開発・製品化し、製品は多くのハウスメーカーに採用されました。

野崎研究室での青春と成長

野崎研究室では空気環境の研究が盛んに行われているためか、「雰囲気」が重要視されています。また、野崎先生が野球部出身であるためか、自然とスポーツマインド溢れる人材が集まります。現在、野崎研究室出身の2名の先生が本学で活躍中です。一條先生はバスケットボール、二科先生はバドミントン部の出身であります。このような逸材が野崎先生の後継者になりつつあることに嬉しさを覚えます。

野崎先生の指導は非常に分かりやすく、しかし、手厳しいものです。ゼミの日は朝から緊張が走ります。この緊張を楽しむ余裕のある学生はいません。野崎・一條・二科先生の合同ゼミでは、3名の先生から一斉に厳しい質問が飛び交います。しかし、この厳しいゼミのお陰で学生の就職率は極めて高く、例年、名門・有力企業に100%就職できています。地方私立大学の研究室に在籍する学生として、とても恵まれている環境にいると感じます。

野崎先生は空気清浄、空気環境、健康環境などを専門とする研究者ですが、一級建築士資格を持っていて、実際に大規模建築物を設計してきた建築士でもあります。このような先生は周りを見渡してもいません。私の大学は医師の多い大学ですが、どの先生も自分の歴史に則った研究をしています。先生はとんでもない能力を持った教授だとつくづく感じます。

(博士前期課程1年 山下健太郎)



世界最高性能の空気清浄機を開発
ミストフレッシュ機構搭載



空気清浄機の実験風景
(大学院生時の一條さんら)



室内環境を再現する空気環境実験室の前で



野崎教授が設計監理した建築物の一例